

第七章

フレーズを作ろう! ペンタトニック編

では、前章で学んだフレーズを使って、簡単にアドリブをしてみましょう（まだアドリブとはいえないかもしれませんが、それは気にしないでいいのです）。

といっても、まだフレーズがひとつしかありませんよね。ですので、今は「場面」を気にせず、練習がてら、トラックに合わせてアドリブをしてみてください。特に盛り上げようとか、方向性をつけようとか、終わり方などは考えなくて結構です。



A minor blues のカラオケ (1コーラスのみ)

もう一度やり方を確認しましょう。

① テーマと同じリズムメロディを使う。

<図 10> | } x x x x x x |

② A マイナー・ペンタトニック・スケールの音を、適当に当てはめる。

これだけです。

さらに、ワンポイント・アドヴァイスをすると、

- ・最初はひとつの音だけで行い、慣れてきたら使う音を増やしていく
- ・ある場所でタイミングを見逃したら、そこはもう捨てて、次のタイミングに備える

どうですか？ フレーズこそチープですが、同じものを使い続けることで、全体のまとまりはかなりしっかりと出るはずです。細かい部分は後でいくらでも練ることができるので、あせる必要はありません。

さて、ここでおさらいをしておきましょう。「いいアドリブ」とはどういったものか？

- ・フレーズが簡単で分かりやすい
- ・音数を少なく、間を空ける
- ・使うフレーズを絞る
- ・盛り上がる箇所を作る

「盛り上がる箇所を作る」以外、ちゃんとカバーできていると思いませんか？　そうです、実は、「1フレーズを繰り返す」ことで、説得力のあるアドリブができるのです。『なら最初っからそう言えよ！』

と言われそうですが、やはり「なぜそうなのか？」という検証も大事なので、本書前半で長々にご説明しました。

ではここから、各場面用のフレーズを練っていくことにしましょう。

フレーズを作ろう! <導入> 編

まずは<導入>部です。

ここではあせって盛り上げようとせず、さりと軽いフレーズで弾きこなしたいところです。セッションなどの場合は、どういう順番でソロを回すか、そのときになってみないと分かりませんが、今回の課題曲では、テーマを2コーラス弾いてそのままソロに移行します。この場合に気をつけたのは、テーマとソロの区別をきっちりつけるということです。

テーマが終わり、いざアドリブに移行した際、本章で練習したようなテーマと全く同じ（リズムック・メロディの）フレーズで弾き始めたらどうなるでしょうか？　まだテーマを弾いているのか、それとも、もうソロに入っているのか、聴き手は混乱してしまいます。ですから、<導入>部のフレーズ（のリズムック・メロディ）は、テーマと全く同じものを使うべきではありません。かといって、あまりにもかけ離れていても、話題が急に飛んだ感じがして、ちょっと違和感があります。そう考えると、<導入>部のフレーズは、テーマのリズムック・メロディに少し手を加えたものが理想的でしょう。

こんなのはどうでしょうか？



これをリズムック・メロディとして、ここにAマイナー・ペンタの音を当てはめてアドリブを試みましょう。試しに1コーラス分を譜面に書き出してみますので、参考にしてください（「×」印のところに音を当てはめます）。例によって、あれこれいろんなことをやろうとせず、最初はひとつの音のみ、慣れてきたら音数を増やしていきましょう。